

始めたのは82歳。

87歳現役モデル
「フランシス・ダンスチーム」

夫の死から4年後、

モデルの仕事を

Frances Dunscombe

動くことを意識して ポジティブシンキングで

87歳の現在も現役モデルとして活躍するフランシスさん。彼女がモデルとして新たな一歩を踏み出したのは82歳の時。お嬢さまの勧めもありモデル事務所「Grey Model Agency」の門を叩きます。

元写真家であるレベッカバレンタインさんは「ともすると社会から無視されている高齢者を社会の影から連れ出し、日の目を浴びる機会を創ることで21世紀の人々の多様性を描写したい」と英国で35歳以上限定のモデル事務所を設立しました。フランシスさんは「80歳をすぎてもなお、未来のモデル候補として歓迎していただいたんですよ」と、出会いを振り返ります。

何事も始めるのに遅すぎることはないとはいえ、大きな決断。そのパワーはどこから湧いてくるのでしょうか。フランシスさんいわく「源に



あるのは「使うか、失うか」という格言です。体は使わなければすぐに機動力と体力が失われるから。

エネルギーな行動力を支えるのはポジティブシンキング。「若い頃は意識せずとも呼吸するように自然に動けたけれども、人生の後半になるとそうではなくなります。意識していつも積極的に動こうとしています」。そのポジティブさが彼女の人生を豊かにする鍵となっています。

目に映る美は 内面の美を変換して

心も体も自らの意志でエネルギーに働くフランシスさんは、内面から放たれる輝きをまとっています。美しさの秘訣を尋ねると「難しいですね」と少し考えてからこう答えてくれました。

「最初に瞬時に伝わる見た目
の美しさは分かりやすいと思いま



Frances Dunscombe

数々の有名ブランドからも指名される87歳現役モデル。London Fashion Week に登場した最高齢モデルであり、世界各国からの取材も多数。ファッション雑誌でも表紙を飾り、Zalandoなどの大手企業広告のモデルにも抜擢され、現在も世代を超えたアイコン的な存在として活躍中。お口のケアを大切に、今でも自分の歯を20本維持している。また日々、心の底から正直に笑うことを大切に生活しており、モットーはポジティブなこと。



すが、実際には内面の美しさを、目に映る美しさに変換する必要があります。それはその人の持つ温かさ、親しみやすさ、その人が生きてきたストーリーかもしれません。



お口は健康のバロメーター 今も20本以上の歯を保つ

フランシスさんの美しさを支える要素の一つが「健康」。今でも20本を超える自分の歯を健康に保ち続けている彼女に、口腔ケアについて聞いてみました。

「1日2回、時間をかけて歯みがきします。まずは電動歯ブラシでみがき、フロスで歯間を清掃、歯間ブラシでみがき残しを取り除きます。さらに、お菓子は1日1個と決め守っています。口の健康は全身の健康にも影響すると信じていて、逆に口が健康でないということは、歯もしくは体のどこかに問題があると考えています」。

彼女のこの考えといくつになっても輝き続ける姿はサンスターの理想と重なることから、新しいメッセージ「100年mouth 100年health」のイメージキャラクターとして参加いただくことに、TVコマーシャルや新聞広告で彼女の美しい姿に目が留まった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



愛する人と共に笑い 幸せな思い出を

いつまでも魅力的に輝いてほしい。そんな願いを込めて「100歳の自分」についてどのようなイメージを抱いているのかを教えてくださいました。

「100歳まで生きるなら、自立し、家族に負担をかけず、幸せな思い出だけを残すことを望んでいます。よく食べる、適切な時間に寝る、運動する、趣味を楽しむ、家族を愛し、家族や友人と笑い合う。これが美の秘訣だと思います」。

美しさへの関心はいつの時代も変わることはありませんが、美の概念は型にはまることなく、時代や年齢と共に変化してゆくことでしょう。





～ SUNSTAR 100年mouth 100年health TVコマーシャルと新聞広告撮影秘話 ～

フランススさんにご出演いただいたTVコマーシャルと新聞広告は2019年12月6日に都内スタジオで撮影。フランススさんはお嬢様と一緒に初来日、前日は銀座でショッピングを楽しまれ、穏やかにスタジオ入りされました。フランスさんの年齢を窺うほどの美しい姿勢、気品ある話し方にスタジオが清められたような雰囲気スタートしました。

TVコマーシャルと新聞広告を同時に撮影しましたが、順調に終了。演技のできない赤ちゃんの撮影は賭けのようなところがあるため、

赤ちゃん一人の役を双子でスタンバイ。二人ともご機嫌で大活躍してくれました。赤ちゃんの機嫌を保っていたのは、お母さんではなく赤ちゃん専門の子守役。赤ちゃんが泣いても瞬時に笑顔に変えてしまうのは独自の手法で、企業秘密だそうです。

フランススさんは赤ちゃんを懐に入れてうまく抱けず「娘を育てたのはずいぶん昔なので赤ちゃんの抱き方を忘れてしまった」と苦笑い。撮影終了後、フランススさんが「本当に良かった? 期待に応えられた?」と繰り返し確認されていたことが

印象的でした。撮影が無事に終了しましたことにあらためて心から感謝申し上げます。



人生100年時代、サンスターが目指すのは、お口の健康を起点とした、全身の健康と豊かな人生。毎日習慣として行う歯みがきなどのオーラルケアは、お口の健康を守り、そして全身の健康を守ることもつながっています。100年食べ、100年しゃべり、笑う。一人一人、自分らしく輝く人生、豊かな人生を送るためにも、お口のケアを大切にしていきたいと考えています。